

2009年3月期(2008年度)決算説明会における質疑応答

• 質問

→:NECの回答

質問者 A

- 固定費の削減計画が前回の3Q決算発表時から倍増されましたが、今回提示された2,700億円の削減目標について、既の実現が見込まれているものはどの程度ありますか。また、09年度にのみ一時的に実施する施策に関する削減額はどの程度ありますか。
 - 人件費をはじめ、償却費やリース費用、広告費やIT費用等については、社内管理が可能なことから全て実現できるものと考えています。また、技術外注費についても、既に部門ごとに削減目標を設定しており、全体で前年度比約20%の削減ができると見えています。具体的な取り組みとしては、回収見通しの見込めない製品開発の中止やソフト開発の海外シフト、内製化の推進などを行っています。技術外注費については月単位の管理だけではなく、必要に応じて週次や日次できめ細かな管理を行い、計画通り進捗するように努めています。
 - 人件費削減額には管理職の報酬カットや昇給の凍結など一時的な対策が含まれますが、それらの合計額は100億円未満です。
- IT/NWソリューション事業の09年度売上予想について、官庁向けが減収、金融向けが横ばい、NGN(次世代ネットワーク)が含まれる国内固定通信向けが横ばいとなる理由をそれぞれ教えて下さい。
 - 官庁向けについては、08年度に大型案件があったため09年度の売上は厳しめに予想しています。また、金融向けは厳しい市場環境ではありますが、既にいくつか見えている案件があることから横ばいを予想、国内固定通信向けも09年度は横ばい程度に留まると見えています。
- 経営改革について、これから手がける案件の費用をどの程度09年度予想に織り込んでいますか。
 - リーマンショック以降、経営改革を前倒しで実行し、08年度は900億円近い構造改革費用を計上しました。09年度の構造改革費用は100億円に満たない水準を想定しています。

- NGN(次世代ネットワーク)関連事業は09年度に踊り場にさしかかると見ていますか。
 - NGN(次世代ネットワーク)の定義は様々ありますが、当社では09年度のNGN(次世代ネットワーク)関連事業は踊り場にさしかかると見ています。ただし今後はLTE(*1)やWiMAX(*2)をはじめとした新しいサービスが出てくると見ており、海外向けも含めて景気回復の先を見据えた顧客へのアプローチを継続していきます。

質問者 B

- モバイルターミナルの減収予想は製品ミックスの変化によるとのことですが、その理由を教えてください。
 - 09年度はモバイルターミナルでシェアアップを目指し500万台の出荷を計画していますが、その中でPDC(*3)から3G(第三代携帯電話)へ移行するユーザ向けには比較的ベーシックな機種種の投入を想定しています。そのため、1台あたりの単価が比較的低いものに需要が集まるのではないかと保守的に見ています。
- LTE向けの開発費は削減する計画ですか。
 - LTEの開発費は確保します。他社との連携などを通じて開発費を抑制する取り組みも実施します。
- 単独のバランスシートを見ると配当原資が不足していると思いますが、資本増強などの可能性はありますか。
 - 09年度は単独で200億円の純利益を目指していますが剰余金が不足するため、資本の部の組み替えを検討しています。

質問者 C

- NECについてはこれまでPCや携帯で海外から撤退しており、グローバル展開が課題と考えています。今後のグローバル戦略について、現時点での考えを教えてください。
 - 当社にとって、グローバル事業の拡大は必須の命題だと認識しています。具体的な例としては、昨年買収したネットクラッカー社は海外事業の拡大に非常に有効だと考えています。これ以外にもM&Aを考える必要があると思いますが、実施時期については慎重に判断していきます。
- 研究開発費は主にどのような分野で削減する計画でしょうか。
 - 08年度の3,465億円から09年度予想では2,800億円とあらゆる分野での削減を想定しています。具体的には、携帯電話機の共通プラットフォーム化や、IT/NWソリューションのポートフォリオ見直しなどを実施していきます。

- NECエレクトロニクス社はルネサスとの統合により連結対象から外す方針とのことですが、統合会社の親会社としてリーダーシップをとる考えはありますか。
 - 特に親会社という意識はなく、あくまで大株主の1人という立場でリターンを求めていく考えです。統合会社をコントロールするつもりはありません。

質問者 D

- コスト削減計画において、受注時からの採算悪化や価格下落の影響についてはどのように考えていますか。
 - ハードウェア、ソフトウェア、SIすべてで約1,500億円のコスト削減を計画しており、それらの影響は吸収できると考えています。
- NECエレクトロニクス社が連結対象外になった際のバランスシートはどのようなイメージになりますか。
 - きちんとした試算ではありませんが、自己資本比率が数ポイント改善し、D/Eレシオは低下すると見えています。
- NECの目指すクラウド事業について、他社とはどのような違いがあるのでしょうか。
 - 現在、NECではグループ内の50社に対してサービス提供するためのクラウドシステムを開発しています。本格的な稼働は10年度以降になると思いますが、このシステムについてはこれまで取引のなかった大企業からの問い合わせが増えており、営業や資材調達のシステムなどは他社へ提供する際のリファレンスモデルになると考えています。
 - NECの考えるクラウド(*4)関連のビジネスモデルとしては、大企業向けの個別システム構築をはじめ、データセンターを活用して中型・中小企業にサービスとして提供するモデル、キャリア向けなどサービス事業者向けに提供するモデルの3種類を想定しています。
 - 当社のシステムはシックスナイン(99.9999%)の信頼性を確保していることや、自社製品だけにこだわらず世界中のオープンシステムで最適なものを使う点が特長です。当社が過去に構築したNTTドコモのインターネット・ゲートウェイや料金課金システムは、メガバンクの10倍のトランザクションを扱うシステムであり、こうしたシステムを作るノウハウが強みだと考えています。
- 為替の感応度はどの程度ありますか。
 - ドルに対して1円変動すると営業損益で8億円のインパクトがあります。

質問者 E

- NECエレクトロニクス社で半導体の基礎開発に携わっていた研究者を、リチウムイオン電池などの開発に振り向けることは考えていますか。
 - 研究開発のポートフォリオについても現在見直しを行っています。半導体の研究者については、ルネサスの親会社である日立や三菱とも協議して決めていく必要があります。NECとしては総花的ではなく、テーマを絞り込んだ研究開発を進めていきます。
- 大きな赤字を出していない事業のリストラが遅れたために、バランスシートが悪化したのではないのでしょうか。また、今後はそのようなリストラは早めに対処することが重要だと思いますが、携帯電話機やPC事業についてはどのような方向性をお持ちでしょうか。
 - NECトーキンなどがその一例であり、大きな教訓として受け止めています。特に電子部品の分野については、ある程度の事業規模がなければ不況を乗り越えられないものと考えています。
 - 携帯電話機やPC事業についても危機感を持っており、それらとサービスを組み合わせた新しい事業にシフトしていくべきだと考えています。具体的な商品化はこれからですが、一部の商品については既に開発を進めています。

以 上

*1 LTE : Long Term Evolution、3.9G、もしくはスーパー3Gとも呼ばれる3G(第三世代移動通信システム)の高速化規格

*2 W i M A X : ラストワンマイルをつなぐブロードバンド無線アクセスシステムとしてIEEE 802.16委員会で標準化完了した無線規格

*3 P D C : Personal Digital Cellular、日本国内で普及した第二世代携帯電話の通信方式の一つ

*4 クラウド : インターネットの中に無数に広がるコンピュータ・リソースを、沸き立つ「雲 (クラウド) 」になぞらえた表現。